

長野県文化財保護審議会への諮問について（案）

文化財・生涯学習課

下記の文化財を長野県宝に指定したいので、文化財保護条例（昭和 50 年長野県条例第 44 号）第 4 条第 3 項の規定により、長野県文化財保護審議会に諮問するものとする。

記

長野県宝に指定する文化財

| 名 称 | 員 数 | 所 在 地 | 所有者の住所及び氏名 又は名称 |
|---|-----|------------------|---------------------------------|
| けんぼんちゃくしよくほだらくさん 絹本著色補陀洛山 せいきょうず 聖境図 | 1 幅 | 木曾郡大桑村大字須原 831-1 | 木曾郡大桑村大字須原 831-1 宗教法人 定勝寺 |

諮問物件の概要

| | |
|-------|---|
| 名称・員数 | けんぼんちゃくしよくほだらくさんせいきょうず いっぷく 絹本著色補陀洛山聖境図 一幅 |
| 所在地 | 木曾郡大桑村須原 831-1 |
| 所有者 | じょうしょうじ 定勝寺 |
| 年代 | 中国元時代（14世紀ごろ） |
| 概要 | 形状 絹本著色 軸装 寸法 縦 113.1cm 横 56.9cm |
| 概況と特色 | <p>本物件は古来中国における観音信仰の聖地普陀山の景観を描いた図であり、普陀山は中国浙江省の港町寧波の沖合の小島で、観音菩薩の住まいである補陀洛山と考えられている。</p> <p>本図には画面上部中央には坐像の観音菩薩、向かって左に月蓋長者、右に善財童子が配されている。普陀山の中央には大伽藍の宝陀寺、島の手前右にある「潮音洞」には立像の観音像が描かれ、二つの観音像は普陀山の観音信仰を伝えている。また山や波の他、右上の短冊には朝鮮半島の「耽羅（韓国済州島）」や「日本国」、左上には「慶元路（寧波）」と書かれている。観音菩薩は海上交通の守護神で、交易船にはこの聖境図を掲げて船の安全を願った。交易相手国は済州島と日本国とみられる。なお、慶元路は元時代のみで使用された地名である。</p> <p>以上により、中国が日本・朝鮮半島との交易があったことと、中国元時代に描かれた渡来品であることがわかる。</p> |
| 諮問理由 | 鎌倉時代から室町時代にかけて日本は禅宗の興隆期であり、中国へ留学する禅僧が多く、寧波は中国側の窓口であった。そのため寧波では仏教絵画を制作する工房が存在し、日本にも多くの仏画が輸出された。本図は元時代、普陀山の観音信仰を描いた国内外に現存する唯一の作品であり、霊場を描いた実景図として極めて貴重なものである。さらに木曾地方の禅寺に伝来したという点は、当時の日中韓の文化交流を示すもので歴史資料としても重要である。 |
| 指定基準 | 第1 長野県宝の指定基準 絵画及び彫刻 オ 渡来品で特に意義のあるもの |

定勝寺の位置図

定勝寺の重要文化財



重要文化財 本堂



重要文化財 庫裡



重要文化財 山門



1 : 25,000

「中国の普陀山・寧波・耽羅・日本」の位置図



1:26 000 000
 0 200 400 600 800 km
 東京中心の正距方位図法
 (東京からの距離と方位が正しい。)

境聖口神現音観山迦洛(陀)恒補

西至慶元路昌國州沈家門
せいじけいげんろしょうこくしゅうちんけもん

東至耽羅日本國黒水大洋
とうじたらにほんこくくすいたいよう



がつかいちようじゃ
月蓋長者

観音菩薩

ぜんざいどうじ
善財童子

ほうだじ
宝陀寺

ちょうおんどう
潮音洞

観音菩薩

「絹本著色補陀洛山聖境図」の全体

